

## 第十一章 子なる神・昇天と祭司の務め

### I キリスト昇天の事実

キリストの復活は、一連のキリストの高擧の最初のものであるから、キリストの昇天は第2の重要な段階と考える事ができよう。これはマルコ16:19、ルカ24:50、51、使徒1:9-11に記録されている。

使徒の働き1章には昇天を叙述するのに4つの表現を用いている。「上げられ」(9節)「雲に包まれて、見えなくなられた」(9節)「上って行かれる」(10節)「あなたがたを離れて天に上げられた」(11節)これらの言明は重要である。なぜなら、キリストの再臨は同じような有り様で起こると言われているからである。

### II キリストが天に達した証拠

聖書は多くの箇所でもキリストが天に到着されたことを述べている。

キリストの昇天後、天におられるのが見えたことを証している。

ペンテコステに聖霊が与えられたことも、キリストが天に昇られた一つの証拠である。

(ヨハネ16:7、使徒2:1-4、33)

### III 昇天の意味

昇天はキリストの地上での働きが終わったこととしるしであった。キリストが天に入られたことは大なる勝利であり、地上での働き completion と、父なる神の右にあっての新しい分野での働き開始を意味していた。それは、最後の勝利と再臨の時を待ちながらも、全世界の主権をもっておられる位置である。

### IV 天におけるキリストの働き

父なる神の右の座にあって、キリストはご自分と教会とを関連づける7つの象徴を満たしておられる。

- 1、終わりのアダムとして、また新しい創造のかしらとしてのキリスト。
- 2、キリストのからだのかしらとしてのキリスト。
- 3、羊たちの大牧者としてのキリスト。
- 4、枝にとっての真のぶどうの木としてのキリスト。
- 5、建物の石としての教会に関連して礎の石としてのキリスト。
- 6、王である祭司としての教会との関連においてわれわれの大祭司としてのキリスト。
- 7、花嫁としての教会に関連して花婿としてのキリスト。

しかしながら、キリストの最も重要な働きは、大祭司としての働きである。その中には4つの重要な真理が明らかに示されている。

1、天上の真の幕屋を司る大祭司として、キリストは天そのもに入れられ、そこでこの世にあるご自分の民のために祭司としての働きをなさる。(ヘブル8:1、2)

2、大祭司としてのキリストは霊の賜物の授与者である(エペソ4:7-11)

3、昇天されたキリストは、祭司としてご自分の民のためにとりなしをしておられる。それは決して終わることがない（ヘブル7：25）

4、キリストは今、ご自分の民のために神の御前にでられる。（Iヨハ2：1）救われた者も、まだ罪を犯す。そのとき、キリストが神の御前で弁護してくださるので、罪の告白をして許されるのである。（Iヨハ1：9）

## V 地上におけるキリストの現在の働き

キリストは天の神の右の座におられるが、地上の教会においても働いておられる。その働きは、神の現在の御業、キリストのからだを形成する民を召し出すこと、この民を地の果てまでも証人とするために力を与えること、またそのからだを清めることと言ってよいだろう。キリストの現在の働きは、再臨と関連して起こる事柄の下準備とも言える。